## 県立図書館だより

平成27年6月

青森県立図書館報 第22号

### デジタルで聴く明治から昭和の音 歴史的音源(れきおん)サービス

青森県立図書館では、5月29日(金)から国立国会図書館の<u>歴史的音源(れきおん)サービス</u>の提供を始めました。

れきおんサービスとは、歴史的音盤アーカイブ推進協議会(HiRAC)がデジタル化した、1900年初頭から1950年頃までに国内で製造されたSP盤及び金属原盤等に収録された音楽・演説等の音源(約5万点)を公共図書館等で試聴できるサービスです。

試聴できる音源は、**淡谷のり子**(青森市出身)の『別れのブルース』など、昭和を代表する歌謡曲から『津軽じょんがら節』、『南部よされ』といった青森県ゆかりの民謡まで多岐に渡ります。

古き良き音を県立図書館 で味わってみませんか?

ご利用の際は、カウンター職員へお申込みください。

歴史的音源利用画面 ► (国立国会図書館HP内)



目 次

デ	ジ	タ	ル	で	聴	<	明	治	か	らり	昭	和(	の	音		歴	史	的	音	源	Ħ	<del>-</del>	- ヒ	ス	•••	•••	• • • •	•••	 	•••		1
北	前	船	が	繋	ぐ	石	JI	. ع	青	森	展		•••	•••	• • •	• • •	• • •								•••	•••			 ٠	٠	••	2
大	学	連	携		最	新	情	報	• • • •		• • •		• •	•••	• • •	•••	· ·	· ·			• • •				•••	•••			 	٠	••	2
参	考	•	郷	土	室	か	ら	の	お	し	ら	せ	!	•••	• • •	•••	· ·	· ·			• • •				•••	•••			 ;	3 ′	~	4
Ξ	ے .	ŧ	の	V	ろ	ば	•••	• • •	••••		•••		•••	•••	•••		• • •								•••	•••			 			5
Ξ	`存	じ	で	す	か	?	こ	の	資:	料	• • •		• •	•••	• • •	•••	· ·	· ·			• • •				•••	•••			 		••	6
ょ	う	٦	そ	文	学	館	^	!	• • • •		• • •		•••	•••	• • •	• • •	• • •								•••	•••			 ٠	٠	••	7
カ	ゥ	ン	タ	_	か	ら	IJ	ع	ے	. ع																			 			8

### 北前船寄港地観光PR展示







青森県旗

船絵馬 大和屋雪山作(県立郷土館蔵)

きたまえぶね つな

# 北前船が繋ぐ石川と青森展

北前船の寄港地である石川県の図書館と青森県の図書館が地域の観光ポスターや チラシなどを交換し、各図書館それぞれで企画展示を開催します。

期間: 平成27年6月26日(金)~8月26日(水)

場所:青森県立図書館 一般閲覧室

今回の展示では、交換したポスターやチラシのほか、<u>県立郷土館</u>とも連携して石川県や加賀、能登、 北前船とその寄港地に関係する資料を展示するとと もに、県立図書館が所蔵する関係資料を貸し出しま す。

石川県の参加図書館では、本県に関する資料の展示と貸出が行われます。

また、県立郷土館では6月17日(水)~30日 (火)にエントランスホールにおいて関連資料の展示が行われるほか、県内からは4つの市町立図書館 も参加しています。展示期間はそれぞれ異なります。



みちのく丸帆走実験(県立郷土館撮影)

も参加しています。展示期間はそれぞれ異なります。詳しくは各館にお問い合わせください。

参加館 青森県:青森県立図書館・青森県立郷土館・青森市民図書館

五所川原市立図書館・むつ市立図書館・野辺地町立図書館

石川県:石川県立図書館・金沢海みらい図書館・加賀市立図書館

## 大学連携 最新情報

県立図書館では、県内の大学等図書館と横断検索や相互貸借等の連携・協力を進めていますが、平成27年4月から、新たに**青森大学**と東北女子大学が加わり、現在は、13の大学等図書館との間で連携・協力を行っています。

	弘前大学	弘前学院大学
	県立保健大学	弘前医療福祉大学
太	青森公立大学	八戸工業大学
学等名	北里大学獣医学部	八戸学院大学・八戸学院短期大学
名	青森大学	青森明の星短期大学
	青森中央学院大学・中央短期大学	八戸工業高等専門学校
	東北女子大学	

### 参考・郷土室からのおしらせ! **故郷** (ふるさと) **つ話題読み語り** 「断固なる処置をとる!」

「もはや戦後ではない。」流行語にもなったこの言葉は、昭和31年の『経済白書 日本経済の成長と近代化』(昭和31年 経済企画庁)第一部 総説の結語で記述されたことばです。

1人当りの実質国民総生産(GNP)が戦前の水準を超えたことなど、国の復興を経済という一面で現したものですが、戦争の記憶と、家族を亡くされた方々の思いが、未だ強く残る戦後10年のことです。

今年は終戦から70年、新聞・テレビでは、様々な特集を組み、報道しています。

青森県近代文学館(当館2階)でも、文学と戦争に 視点をあてた展示を行います。

さて、今回のご質問は、青森空襲についてです。



#### 【質問】

青森空襲のとき、空襲を予告する米軍のビラを見て避難した市民に、「逃げたら配給を停止する。」と、通告したことで犠牲者が増えたと聞きました。どういうことですか? 記録・資料は残っていますか。

1945 (昭和 20) 年 3 月 10 日末明の東京大空襲とほぼ時を同じくして、青森県にはじめて米軍機 (B29) が現れます。その後のたび重なる飛来に、青森も空襲は避けられないと、病人・子供たちの疎開や、建物疎開、空襲時の防火訓練が行われていきます。

同年7月14・15日には、戦闘機による主として連絡船を目標とした攻撃が行われ、いよいよ空襲が迫っていると感じられるようになり、青森市では、避難のための疎開をする人たちが日増しに多くなっていきます。

当時は「防空法」という法律で、病人・子供・老人などを除き、働ける者が都市から退去(避難)することが禁止され、空襲時の消火活動が義務付けられていました。

違反をすると懲役または罰金が科せられることになっていました。

7月17日 当時の金井知事は、14・15日の連絡船への空襲で狼狽し、一部の県民が職場を離れ、働ける者までが避難をしている状況について、記者の問いに、

「一部に家をからっぽにして逃げたり、田畑を捨てて出てこないというものがあるそうだが、もっての外である、<u>こんなものは防空法によって処罰できるのであるから</u> 断固たる処置をとる ~」

「~ 空襲だからと一日も二日も働かず逃げ廻ったりするものがあれば、当然処罰する。」

と答え、翌日18日の『東奥日報』(二面)に「何事ぞ・浮き足立つ街の騒音」「速に戦列に還り 職任完遂に起て 金井知事県民の沈着要望」という見出しで報じられました。

この報道があっても市民の避難は続き、20日ころからはじまった米軍の宣伝チラシが避難を更に加速していきます。



『東奥日報』昭和20年7月18日 金井知事の声明記事

このような状況下、21日の『東奥日報』 に、大きな見出しで「逃避市民に"断" 復帰は二八日迄」という記事が掲載され ます。

青森市は、知事の「断固たる処置をとる。」という声明をうけ、市民の避難を食い止めるため、28日までに自宅に戻らない場合には町会の人名台帳から抹消し、物資の配給を停止すると通告したのでした。

戻らなければ「戦列離脱者」「逃避者」 というレッテルを貼られ、非難されるこ

とは必至であり、さらに物資不足で食料の買い求め に苦労していた状況下で配給を停止されることは、 大変なことでした。

この通告は、近隣の村落や親類を頼って避難していた人たちに伝わり、青森市に復帰しだすのでした。

期限の前日7月27日に、新たなチラシが投下されます。チラシには、地図に書かれた都市のいずれか4つか5つを爆撃すると書かれ、「青森市」が含まれていました。爆撃の予告と避難の呼びかけだったのです。



空襲の前日に投下されたチラシ 左(裏面)、右(表面)

昭和20年7月21日 青森市の配給停止の記事

ところがこのチラシは警察、憲兵らによって回収され、謀略として無視されてしまいます。 7月28日 復帰期限の夜、青森市は60機もの爆撃機によって焼き尽くされてしまった のです。

空爆による死者は737人、重軽傷者と不明者は290人(昭和20年内務省他への報告数;調査時点により、集計数はそれぞれ異なります)。その中で、どれだけの市民が家に帰り、この空襲の犠牲となったのかは正確に把握できませんが、「青森空襲を記録する会」がまとめた記録集などには、多くの証言が残されています。

配給停止という処罰に言及した通告が実際に出され、住民が疎開先から復帰し、被害にあったことは全国的にも珍しいもので、平成27年3月4日付『東京新聞』の「東京大空襲」の特集記事の中でも紹介されています。

#### 【参考文献】

『写真集 青森大空襲の記録』 青森空襲を記録する会・編 1995 『青森空襲の記録』 青森空襲の記録編纂委員会 青森市 1972 『日本の空襲-北海道・東北』 日本の空襲編纂委員会 三省堂 1980 他

● レファレンス申込み及び問い合わせ先

青森県立図書館 参考・郷土室 電話 017-729-4311 FAX 017-762-1757 電子メール sanko@plib.pref.aomori.lg.jp

### おとなも一緒に!

## こども の ひろば



# ~ おとなの利用が増えています。 ~ 児童室 ちょっと覗いてみませんか!

児童室は、子どものためだけの部屋?「いえいえ、そんなことはありません。」 最近は、おとなの方の利用が増えているんです。

活字が大きく見やすい「国語辞典」、筆順がついていて「あれ、そうだった?」なんていうことも。子どもはなんでも知りたがりますから、絵本や図鑑には、大人

の本には載っていないようなものがあり驚かされます。「奈良の大仏様」の手や指の大きさが書いてあって、思わず手を広げ"このくらいかぁ~!"。蒸気機関車の内部構造の大きなイラストでは、蒸気の流れを指で追ってしまいます。

落語から文学作品まで、「平家物語」や「三国志」「リア 王」と古今東西を問わず、おとなの本と変わりなくありま す。是非、おとなの方も児童室にお立ち寄りください。



絵巻平家物語2 祇王 木下順二文 ほるぷ出版 1984

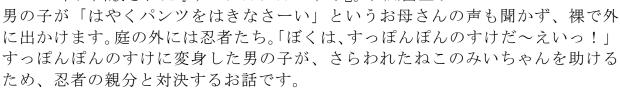
# ~ 子どもは、OOOがすき! ~ あのヒーローが大きくなって!

子ども達に人気の絵本の題材といえば、「うんこ」「おっぱい」「パンツ」「すっぽんぽん (はだか)」・・・身近なこと、生活の中のできごとに興味を持つのは、子どもたちの発達過程では大切なことですね。それがヒーローだったら大人気の主人公まちがいなし!

### 『すっぽんぽんのすけ ひかる石のひみつ』

(もとしたいづみ作・荒井良二絵 鈴木出版 2015.1)

1999年に出版された『すっぽんぽんのすけ』。お風呂上りの



子ども達に大人気となった『すっぽんぽんのすけ』は、『すっぽんぽんのすけせんとうへいくのまき』(2002)、『すっぽんぽんのすけデパートへいくのまき』(2004)とシリーズで出版されました。

今回、すっぽんぽんのすけが小学生になり、60ページ以上の物語となって登場しました。そして、悪い犬の忍者とたたかってくれてます!はじめの出版から 16 年、成人した方も、大きくなったすっぽんぽんのすけの活躍を、是非、ご覧ください。



1945 (昭和 20) 年8月の太平洋戦争終結から、今年で70年を迎えます。

実際に戦争を体験した世代が年々減少し、戦争の記憶が風化しつつある中、当時の青森県の世相を今に伝える資料の一つに『月刊東奥』があります。

1939 (昭和 14) 年に東奥日報社が創刊した『月刊東奥』は、今純三の手による多色刷りの表紙画や県内名士令嬢のグラビア連載「みちのくに咲く」、また

「日本一を誇る弘前城"さくら"物語」(昭和14年4月号)や「ネブタの追想」(同8月号)といった70年以上経った今も変わらない青森県の名物に関する記事など、戦時下ながら青森県の月刊総合誌として毎号約200ページにも及ぶ充実した誌面を誇っていました。

しかし、戦局の悪化につれ、ページ数の減少とともに記事の内容も次第に変化。

昭和20年に入ると、誌面には「恐るな空襲」(昭和20年3・4月合併号)、「郷土防衛に死せん」(同6月号)など、本土決戦を強く意識した記事が並ぶようになります。

特に、かつて「戦争に何の関はりもない」「栽培するは以ての外」と言われたりんごが「航空機用アルコールの原料として国家資源にまで飛躍した現在では、林檎栽培者を非国策的なものとして視る人は一人もをるまい」との記事(「航空機燃料となるリンゴ」「リンゴも兵器」(同6月号))からは、戦争に翻弄される生産者の苦悩が伺えます。

終戦直後の9月には、わずか15ページながら8・9月合併号を発刊。石坂洋次郎は

「生活に自主性を」と題し、「例へ国土が狭められて戦力が失はれようとも、世界文化に貢献する道は残されてゐる」「明るい希望をもつてわれわれの前途に横はる荊棘の道を切り拓いていかなければならない」と県民に訴えかけました。

秋田雨雀や今官一、太宰治ら錚々たる顔ぶれが寄稿し、青森県の文化の一翼を担った『月刊東奥』は、東奥日報紙夕刊の創刊に伴い、1950(昭和25)年3月号をもって廃刊となりました。



『月刊東奥』 昭和 20 年 8・9 月合併号

今回ご紹介した**『月刊東奥』**は、劣化防止のため書庫に保管しております。ご覧になりたい方は、当館職員にお問い合わせください。

青森県立図書館では、青森県に関する資料や青森県内で刊行された資料、青森県在住者・出身者の著作物等を郷土資料として積極的に収集し、永く保存するとともに、 県内外の皆様に広くご利用いただいております。

### ようこそ文学館へ! 近代文学館資料の紹介(第21回)

青森県近代文学館では**特別展「青森の文学者たちの戦前・戦中」**を7月18日 (土)から9月23日(水・祝)まで開催します。今回は展示予定の資料の中から、2点を紹介します。

#### ●北村小松『火』上巻 東京日日新聞社 昭和17年7月



日本初のトーキー映画「マダムと女房」の原作脚本を手掛けたことで知られる北村小松(1901~1964、八戸市出身)は、昭和10年代には冒険小説を数多く発表しました。昭和16年には「小国民新聞」に「火」を連載。翌年に単行本化されました。

この作品には原子爆弾に関する記述が登場します。当時10歳だった小松左京は「こんなの嘘だろう」と思ったそうです。しかし4年後「二発も落ち」「本当に驚いた」と著書『SF魂』で振り返っています。稀覯本としても知られ、SFファンの間で伝説的な存在となっている1冊です。

### ●太宰治 草稿「お伽草紙」

太宰治 (1909~1948、五所川原市出身) は昭和20年4月、空襲により三鷹の住居を損傷。美知子夫人の実家がある甲府市へと疎開します。「お伽草紙」の「瘤取り」の部分は、同年3月から書き始められ5月に脱稿。雑誌「現代」

に送られたものの、掲載されなかったと言われてい ます。

7月、空襲で美知子夫人の実家が全焼。太宰は見舞いに駆けつけた小山清に「お伽草紙」全編の原稿(「現代」から返却されたものに書き継いだのか、新たに書き直したのか不明)を託し、妻子とともに津軽に疎開しました。筑摩書房によって出版されたのは、終戦後の10月のことです。

当館では「前書き」と「瘤取り」の部分の草稿を 所蔵しています。編集上の書き込みはほとんどなく、 「現代」に送られた一次稿という可能性も指摘され ています。空襲をかいくぐりながら太宰が生み出し た、珠玉の物語の草稿です。



### カウンターからひとこと(第21回)



県立図書館では平成 24 年 4 月から "図書館ボランティア" の皆さんにお手伝いいただいています。活動 4 年目となる平成 27 年度は、26 人の方が登録しています。

#### 図書館ボランティアの活動内容は?

主な活動は、「資料配架活動」です。

図書館の本は、本の背に貼られている「背 ラベル」に書かれた数字などの記号によっ て、規則正しく並んでいます。

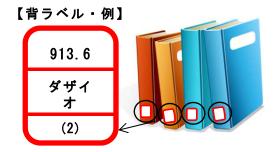
資料配架活動は、利用者の方が必要とする本をすぐに探し出せるように、返却された本を本棚の正しい場所に戻したり、本が間違った場所に置かれていないか確認しながら、本棚を整理していく活動です。

また、この他に、利用者から本棚や館内の施設の場所、図書館の利用方法などについて尋ねられた際にご案内する「利用案内活動」も行っています。

### 研修会を行いました

3月17、18日には資料配架を中心とした研修会を行い、背ラベルの見方をあらためて学んだほか、活動一年目の方々は本棚の位置を確認しながら返本作業の練習をしました。

また、4月23日には希望者を対象とした利用案内研修会を行い、「本は何冊まで借りられるか?」「車椅子はあるか?」などの基本的な質問への対応を確認したり、利用者検索端末やマイクロリーダーなどの機器の操作方法を練習しました。





本を探すための利用者検索端末(上) や、マイクロリーダー(下)の操作方 法を確認しました。



本年度もボランティアの皆さんにご協力をいただきながら図書館サービスの充実に取り組んでまいります。